

特集

平成28年度版教科書には、多くの新しい題材が入り、
これまでに掲載していた題材については、よりパワーアップしました。
今回は、それらを使ってどのような授業が考えられるか、
4人の先生方にさまざまなアイデアをご紹介します。

撮影 鈴木俊介

提案

1

美術とのよい出会いを

山崎正明 (北翔大学教授・元北海道千歳市立北斗中学校教諭)

原寸大で鑑賞しよう
か えん が た ど き
火焰型土器

新版教科書の中でも、私が特に魅力を感じているのは、「原寸大で鑑賞しよう」です。この迫力ある題材で、どのような授業が生まれるのか楽しみです。

例えば、「火焰型土器」。生徒たちは、既に社会科で縄文土器を学習していますが、この大きな写真に、ま

ず驚くでしょう。

鑑賞するときには、土の粘土を生徒たちに触らせていただきたいと思っています。そして、「粘土でこの土器の『部分』をつくってみよう」と投げかける。すると、生徒たちは粘土をこねながら、原寸大の図版を見てさまざまなことを考えるでしょう。「手先だけでこの形をつくるのは難しい。道具を使ったのかな」とか「こんなに手の込んだ模様をつくろうと思っ

たのはなぜなんだろう」と疑問をもち、当時の人々の気持ちや暮らしぶりまで想像するかもしれません。社会科で学習した内容と関連づけて、鑑賞を深めていくこともできると思います。

また、縄文土器はさまざまな場所で出土していますから、地元の土器を取り上げてもいいですし、可能なら、地元で採れた土の粘土を生徒たちに触らせるのもよいでしょう。

原寸大で鑑賞しよう
灰色のフェルト帽の自画像

ゴッホの「灰色のフェルト帽の自画像」については、鑑賞するときに、油絵の具とキャンヴァスを生徒たちに紹介したいですね。

多くの中学生は、油絵の具やキャンヴァスを扱ったことはありません。ですから、実際にそれらを使わせてみて、ねっとりとした質感や、木枠に布を張ったキャンヴァスの弾力を感じ取らせたい。その体験をすることで、描いた人の気持ちにより近づけるのではと思います。

「土の粘土に触らせることで、より当時の人たちの思いに近づけるのでは」と山崎先生。

原寸大で鑑賞しよう

作品の部分を原寸大でダイナミックに掲載。高精細な図版を細部まで見ることで、鑑賞がより深まり、自分の表現活動にも生かすことができる。



火焰型土器
『美術1』P42-43



灰色のフェルト帽の自画像
『美術2・3』P24-25



鳥獸花木図屏風
『美術2・3』P48-49



平螺鈿背円鏡
『美術2・3』P76-77

教科書は「いったりきたり」しながら活用してほしい。

そして、生徒たちには、油彩用の硬い筆を持たせ、図版の筆の動きをなぞらせてみたいですね。そうすることで、ゴッホの筆づかいを感じることができ、「なぜこんなにさまざまな方向に筆を動かして描いたのだろう」「どんな気持ちだったのだろう」「なぜこの色の上に、この色を重ねたのだろう」などと疑問をもち始めると思います。その声に耳を傾けながら、どんどん鑑賞を深めていけたらいいと思います。

また、教科書（『美術2・3』P24）には、ゴッホが使ったとされる毛糸玉が紹介されています。彼は毛糸を使って配色を考えていたと言われていますが、生徒たちにも同様に、さまざまな色の毛糸を触らせて、ゴッホの制作過程を追体験させてみてほしいかもしれません。「ゴッホはなぜこのような色を使ったのだろう」と、色づかいに疑問をもつ生徒に対しては、「学習を支える資料」の色相環（『美術1』P62）を見せると、



実際に筆でなぞってみると、ゴッホの筆づかいの巧みに驚くはずだ。

補色について学ぶよい機会になるでしょう。

鑑賞が深まっていくと、「ゴッホが生きた時代はどんなだったのだろう」と疑問をもつ生徒が出てくると思います。そのときには、「トピックス美術史」の印象派のページ（『美術2・3』P94）を見せて、印象派が生まれた時代背景やスーラの点描の作品などを合わせて紹介するとよいでしょう。新版教科書は巻末資料がとても充実していますので、教科書のページを「いったりきたり」しながら、美術への理解を深めていけるように使っていただきたいと思います。



螺鈿は表情豊かで繊細な素材。実際に手にすれば平螺鈿背円鏡の見方も変わるだろう。

原寸大で鑑賞しよう へい ち る でん はいの えん きょう 平螺鈿背円鏡

正倉院の「平螺鈿背円鏡」では、やはり工芸品がもつ装飾の美しさ、精緻さを、生徒たちに味わわせたい。その手立てとして、実際に螺鈿を生徒たちに触らせるのもよいでしょう。安価なものだと数百円で売っているから、1枚購入して、グループごとに回して見せるとよいと思います。

螺鈿は光の当たり方によって表情が変わるので、その美しさを感じ取ってほしいですね。また、薄くて繊細な螺鈿を手にながら原寸大の図版を見ることで、当時の人々が、この素材を切り抜いて1枚1枚貼っていき、さらにそこに彫りを施していたことに、生徒たちは驚嘆するでしょう。つくった人に対して尊敬の念を抱くのではないのでしょうか。

見て描く楽しみ

それから、私は教科書の編集委員という立場から、「見て描く楽しみ」（『美術1』P8-11）という4ページ続きの題材をぜひ活用していただきたいと思っています。中学校のスタートで「美術って楽しいなあ」と生徒たちに感じてほしいという願いを込めて位置づけた題材です。

はがきほどの小さな紙に、自分のお気に入りのものを描くという題材なので、「1時間で何枚描いてもいいよ」と、気軽にやらせてみてほしいですね。画材としては、「透明水彩絵の具」をお勧めします。教科書（『美術1』P50）にも詳しく掲載されていますが、これを使うことで、気軽にさっと描くことができ、絵の具をより身近に感じるができるでしょう。

題材の中では、「みんなの工夫」として、生徒たちの制作過程をご紹介します。友達からアドバイス

をもらったり、色を試しながら描いたり……という制作中のさまざまな工夫を写真とともに詳しく掲載しているので、ぜひ授業の中で生徒たちに紹介していただきたいですね。

この題材では、全員で同じモチーフを描くのではなく、「お気に入りのものを描こう」としています。やはり好きなもののほうが、生徒たちは真剣に取り組めますから。私が以前、実際にこの授業をしたときは、教壇の前に、コップに生けた色とりどりの花をずらっと並べました。すると、美術室に入ってきた生徒たちが「わーっ!」「きれい」と、ぱっと笑顔になりました。そこで私はすかさず「お気に入りのものを家から持ってきた子はそれを描こう。お気に入りの花が見つけれなかった子は、この花を描いてもいいよ」と投げかけました。結果、お気に入りの

ものを描く生徒も、花を描く生徒も、明るい表情で意欲的に取り組んでいました。

美術室に花が並んでいたら、生徒たちは驚きますし、「中学校の美術の時間って楽しそうだな」とか「美術の先生って、おもしろそうだな」と、わくわくすると思います。ぜひ、最初の授業は導入を工夫し、生徒と美術との出会いをよいものにしていただきたいですね。きっと、新版教科書はその一助となることでしょう。（談）



やまざき・まさあき
北海道生まれ。北翔大学教授、元千歳市立北斗中学校教諭。北海道教育大学札幌校卒業。埼玉県で講師を務めた後、北海道の公立中学校教諭に。全国造形教育連盟事務局。自身のブログ「美術と自然と教育と」で、授業実践や生徒作品などを紹介している。光村図書中学校「美術」教科書の著作者でもある。

トピックス美術史 『美術2・3』P94-95

「印象派」「ジャポニズム」など、美術史に関連したトピックを取り上げている。

美術史用語

学習してほしい美術史用語を取り上げて解説している。



年表バー

わかりやすく整理した「美術史年表」を掲載。トピックの属した年代も表示している。

見て描く楽しみ 『美術1』P8-11

2ページで導入の内容、続く2ページで制作の手助けになるような内容を示した「4ページ題材」。



みんなの工夫

実際の授業で、生徒たちがどのように制作しているのか、発想から完成までの過程を、取材して掲載。



生徒と対話するきっかけに

柳沼宏寿 (新潟大学教授)

朝起きてから 夜眠るまでの美術

私が、美術の時間でいちばん大事にしているのは、生徒と対話することです。『美術2・3』の初めに位置づけられている「朝起きてから夜眠るまでの美術」は、生徒たちと対話するきっかけを生む、授業の導入にぴったりの題材だと思います。

全員でこのページを開いて、「朝起きたときに、みんなはまず何を見る？」と投げかけ、目覚まし時計のデザイン、パジャマの模様、歯ブラシの形など、自分の身近にあふれる美術について、振り返らせていきたいですね。

私は、この題材を表現活動にもつなげたいと思っています。「私の『朝起きてから夜眠るまでの美術』」と題して、教科書と同じように、生活の中で見つけた美術を、時系列で表現させたい。絵で描いてもいいし、

写真で撮ってきてもいい。同じ道を歩いて通学していても、生徒によって見えるものは違うでしょうから、その違いをみんなで交流したら、とてもおもしろい授業になるんじゃないでしょうか。

映像メディアを活用する

私は長年、「映像メディアが美術教育に果たす役割」について研究しています。映像メディアに興味をもち始めたのは、中学校の教師をしていた頃のある出来事がきっかけです。なかなか美術に意欲を示さない生徒がいたのですが、ビデオで短いドラマを制作するとなった途端、彼は目を輝かせ、意欲的に取り組み始めました。映像メディアは、生徒の学習意欲や知的好奇心を引き出すきっかけになるかもしれない——そう思ったのです。

ただ、映画やドラマをつくるのは



「映像メディアを活用する」は、『美術2・3』の巻末に掲載されている。

大がかりになるので、まず、テーマを決めて短い映像をつくって、みんなで鑑賞することをお勧めします。例えば「赤色」「丸いもの」「川」など、何か一つテーマを設定し、そこから発想を広げていく。そのときには、ぜひ「学習を支える資料」の「映像メディアを活用する」(『美術2・3』P80-81)を、役立てていただきたいですね。写真や動画を撮影するときのポイントや機器の使い方が、実にわかりやすくまとめられています。

今は、スマートフォンやタブレット端末で、簡単に動画を撮影したり編集したりすることができる時代です。コマ撮りや逆再生ができる、おもしろいアプリケーションも開発されていますので(※)、それらを活用しながら、気軽な気持ちで、生徒たちと映像メディアを楽しんでいたいただけたらと思います。(談)



やぎぬま・ひろとし

福島県生まれ。新潟大学教育学部教授。福島大学教育学部卒業後、福島県公立中学校教諭を経て、新潟大学教育学部准教授に。2012年4月より現職。美術教育における学びについて授業研究や地域連携アートプロジェクトを通して研究している。光村図書中学校『美術』教科書の著作者でもある。



朝起きてから
夜眠るまでの
美術
『美術2・3』P5-7

※さまざまなアプリがある中で、柳沼先生のお勧めは、『KOMA KOMA for iPad』(簡単にコマ撮りアニメーションが作れるiPad用アプリ)と、『逆転時間』(撮った映像を逆再生できるiPhone用アプリ)。



豊かな鑑賞のために

庄子展弘 (北海道上富良野町立上富良野中学校教諭)

特別展示室 風神雷神, 自然と人と

「風神雷神図屏風」(『美術1』P23-26)を鑑賞させる際、屏風の特性を生徒たちに感じ取らせたいので、実物大の複製を用意するようにしています。以前に、実物大の屏風を床に立て、教室を暗くし、ろうそくの光だけで鑑賞させたことがあります。生徒たちは床に座り、低い目線で屏風を鑑賞したのですが、ろうそくの炎がゆらめく中での授業は、とても盛り上がりしました。

しかし、作品の細部や色味をしっかり鑑賞するときには、教科書の図版を活用したいと思います。新版教科書は、屏風の「金色」にかなりこだわって印刷しているそうなので、生徒たちには、教科書の図版は実物の金屏風の色に近いということも話してあげたいですね。

屏風は置き方によって、表情を変えます。右隻と左隻を少し離して置いたり、入れ替えて置いたりすることで、見え方がぜんぜん違ってきますので、実際に屏風を動かして、そのおもしろさも体感させたいと思います。また、「自然とともにある日



実物大の屏風をろうそくの光で鑑賞したときの様子。教室に入った生徒からは歓声が上がった。



特別展示室
風神雷神,
自然と人
『美術1』P22-27



本の美」(『美術1』P28)では、尾形光琳の「風神雷神図屏風」と、その裏に描かれていた酒井抱一の「夏秋草図屏風」が紹介されています。なぜ、風神雷神の裏に、まったく印象の異なる絵が描かれたのか。この題材を使いながら、屏風の表と裏の関係についても、生徒たちに考えさせたいと思います。

木のぬくもりと暮らす

「木のぬくもりと暮らす」(『美術1』P38-39)では、木でつくられたバターナイフやスプーンなどが紹介されています。私は長年、「バターナイフの鑑賞」と題して、形の違う5種類の木製のバターナイフを生徒たちに実際に使わせてみるという授業を行っています。そのときに、このページを活用したいですね。

授業では、実際に食パンを焼いて、バターを塗らせ、生徒たちに5種類のナイフのうち、どれがいちばん使



特集
新版教科書,
こう使う



「バターナイフの鑑賞」で使う、さまざまなナイフ。「実際に使ってみることが大事」と庄子先生。

いやすかったか、なぜ使いやすく感じたのかを考えさせます。そして、そこで考察したことを基に、バターナイフの制作をさせます。教科書には、木工作家の言葉や生徒作品などが多く掲載されていますので、折に触れて生徒たちに紹介していきたいと思っています。(談)



しょうじ・のぶひろ

北海道生まれ。上富良野町立上富良野中学校教諭。北海道教育大学旭川校卒業。北海道ではいち早く対話による鑑賞に注目し、2004年の北海道造形教育研究大会で、「森の掟」(岡本太郎)、「刈田」(徳岡神泉)を題材として対話による鑑賞授業を、08年の美術による学び研究会で提言発表を行った。

発想や構想の能力を伸ばす

鈴野江里 (元横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校教諭)

「うつくしい!」

私は、「発想や構想の能力」を育てることをとても大事に考えています。もちろん創造的な技能も大事ですが、「発想や構想の能力」は、生徒たちが将来どんな仕事についても、必ず役に立つと思うからです。

その力を育てるため、生徒たちに「発想ノート」という A 5 サイズのスケッチブックを持たせています。自分が「美しい」と思ったものを記録させたり、制作のアイデアをかき留めさせたりするノートです。

1 年生の最初、このノートを生徒たちに配るときには、「うつくしい!」(『美術 1』P2-3)を紹介したいと思います。この詩を鑑賞することで、美術がどういう教科なのか感覚的に伝えることができますし、「自分の周りにある美しいものを集めよう」と投げかけ、「発想ノート」の活動につなげることができます。学習指導書の付属 DVD には、この詩の作者・谷川俊太郎さんが朗読した動画も収録されているので、合わせて紹介したいと思います。

「発想ノート」を使って、日常的に「美しいもの集め」をさせていますが、長期休みの前には、「季節の『美しいもの』を集めよう」と課題を出し、休み明けにノートに集めたものをグループで交流させることもあります。また、「商品パッケージをデザインする」という学習をするときに、導入として「自分の周りの気になったパッケージを集めよう」と課題を出し、ノートに集めたものを表

発想のための
スケッチブック
三沢厚彦
『美術1』P46-47



生徒たちの「発想ノート」。
写真やメモだけでなく、布や貝殻を貼る生徒も。

現活動につなげることもあります。大事なのは、集めたものが生かせるような題材を設定すること。また、教師がノートを厚くさせることばかりにこだわらないことも大事です。ノートはあくまで生徒たちの思考や過程を見るためのもので、作品ではありませんから。

発想のためのスケッチブック
み さ わ あ つ ひ こ
三沢厚彦

2 年生になったら、「発想ノート」の内容をより深化させたいので、三

沢厚彦さんのスケッチが描かれたノート(『美術 1』P46-47)と、学習指導書の付属 DVD に収録されている三沢さんのインタビュー動画を見せたいと思います。三沢さんは普段からノートを持ち歩き、そこにスケッチすることで、自分の考える動物「らしさ」を探っているそうです。そういう作家の考え方や生き方が、作品として表現されていることを教えたいですね。そこに気づくことで、生徒たちの「発想ノート」がより豊かなものになり、「発想や構想の能力」を伸ばす一助になるのではと考えています。(談)



すずの・えり

神奈川県生まれ。和光大学人文学部芸術学科卒業。元横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校教諭。教育課程研究指定校(国立教育政策研究所、平成25年度指定)、教育課程研究協力校(国立教育政策研究所、平成25~27年度)の教科主任として研究を推進。授業美術実践研究会の事務局も務める。

新版教科書、
こんなふうに使ってほしい

授業提案を読んで

火焰型土器を鑑賞するときは材料(粘土)に触れさせ、ゴッホの絵画を鑑賞するときは図版の上に画筆を置きゴッホの筆の動きをなぞらせる。山崎先生からは、目で見ただけではなく、実際に作者の制作過程を追体験させる授業提案をいただきました(P5-6参照)。このような体験的な鑑賞が表現と密接に関係していることは言うまでもありません。

その具体的な例として、庄子先生からはバターナイフの制作の前に、実際に食パンを焼いてバターを塗り、どんなバターナイフがいちばん手になじみ、使いやすいかを体感させるという授業提案をいただきました(P9参照)。

お二人の授業提案に共通しているのは、経験を通して鑑賞させるということです。図版を見るだけでなく、制作過程を追体験してみたり、実際に使ってみたりして、作品を自分のものとして捉えることによって鑑賞が深まり、表現もまた深まるのです。

鈴野先生からは発想・構想の能力を育てるために「発想ノート」を持たせ、日常的に「美しいもの集め」をさせる提案をいただきました(P10参照)。提案にあるように「日常的に集めさせる」というところが大切です。授業が始まってから「さあ発想しよう」と促したり、発想のためにノートを開かせるのではないのです。日頃から世界に向けて発想のアンテナを鋭敏に張り巡らせておくことが大切なのだと、鈴野先生は指摘されているのです。それが表現のた

め、美術のためだけでないことは明白でしょう。

柳沼先生もまたテーマを設定して素材を集め、そこから発想を広げて映像をつくって鑑賞する授業提案をされています(P8参照)。「朝起きてから夜眠るまでの美術」についても、自分の身近にあふれる美術について日常的に振り返ることが大切であり、そのためには普段から自分の生活や社会に向けてアンテナを張ることが大切なのです。

さて、新版教科書には充実した巻末資料があります。材料・用具・技法のページから色彩に関するページ、発想に関するページ、美術史に関するページなど、学習を支える資料が満載です。題材ごとに必要な資料を参照することはもちろん、鑑賞や表現と色彩の理解を関連づけた学習や、鑑賞から美術史に展開する学習などさまざまな教育計画の策定に役立てることができます。題材のページと巻末資料ページとを「いったりきたり」して有機的に活用してください。ページ右下にある ➡ はそのよい手がかりとなるでしょう。

新版教科書は「なぜ人間は、何かをうつくしいと思うんだろう?」という問いかけから始まります。これは生徒一人一人に向けられた問いかけに他ならないのです。中学校3年間の学習を通して自分なりの答えが形づくられるようにしたいものです。



特集

新 版 教 科 書、
こ う 使 う



上野行一
う え の ・ こ う い ち

大阪府生まれ。「美術による学び研究会」会長。高知大学大学院教育学研究科教授、帝京科学大学教授を務める。『五感をひらく10のレッスン』(美術出版社)、『私の中の自由な美術』、『風神雷神はなぜ笑っているのか』(光村図書)など著書多数。NHK高校講座「芸術(美術I)」を監修。光村図書中学校「美術」教科書の著作者でもある。



特集
新版教科書、
こう使う

新版教科書

Q&A

授業で十分に教科書をご活用いただけるよう、
さまざまな工夫をしています。
その一部をQ&A形式でご紹介いたします。

Q1 道徳教育とは、どのようなところで 関連を図っていますか。

A1 各題材で、道徳学習に関連する内容を
積極的に取り入れました。

各題材には、「他者への思いやり」「人権」「平和」「伝統文化」「自然」「環境」など、道徳の学習に関連する内容を積極的に取り上げています。特に、道徳の学習と関連して扱うことができるページの左下には、「道徳との関連」マーク♥を示しています。

これにより、生徒は道徳の時間に学習したことを思い出したり参考にしたりして、学習を進めることができます。また、教科書に対応する年間指導計画例にも、道徳との関連欄が示されていますので、授業の計画を考える際に参考にしてください。



特に道徳と関連する題材の左下には、道徳との関連を示すマーク♥と、道徳の時間に学習したことを想起させるような文章を入れた。

東日本大震災を受けての美術の取り組みや
生徒作品を紹介し、困難な状況にある他者に寄り添い
思いやる美術の例を示した。

Q3 生徒の発想や構想の能力を高めるために、 どのように工夫していますか。

A3 生徒自らが発想を広げたり
構想を練ったりする際の参考になるヒントを、随所に設けました。

「表現中心の題材」には適宜、「発想・構想のヒント」マーク★を示し、生徒が発想を広げたり構想を練ったりする際のヒントとなるように工夫しました。また、各領域の節目には、4ページ続きの題材を設けています。生徒の学習意欲を引き出すような作品や図版を多く掲載するとともに、

生徒の発想・構想を紹介する「みんなの工夫」を新設しました。また、巻末の「発想のためのスケッチブック」では、作家やデザイナーなどの発想・構想のしかたを各冊1名ずつ紹介し、生徒自らが発想を広げたり構想を練ったりする際の参考になるようにしました。

季節感のある暮らしを楽しむ
『美術2・3』P64-67



電球のマーク★で、「発想・構想のヒント」を示している。「みんなの工夫」では、男女1名ずつの生徒の制作過程を掲載し、異なる発想を示すことで、生徒が安心して自らの表現を追求できるように配慮した。

Q2 技法や用具は、 どのように扱われていますか。

A2 さまざまな基本的な技法を
「学習を支える資料」として巻末にまとめました。

『美術1』の「学習を支える資料」では、「鉛筆やペンで描く」「絵の具で描く」「さまざまな技法で描く」「粘土でつくる」などの基本的な技法をまとめて紹介しています。3年間を通して生徒が必要に感じたときにいつでも参考にできるように工夫しました。

『美術2・3』の巻末には「映像

メディアを活用する」「金属や石でつくる」など、各題材と関連する技法を掲載しています。

また、「表現中心の題材」の中で、「学習を支える資料」に関連する題材には、ページ右下に「巻末資料へのリンク」マーク➡を示しています。生徒が表現活動に取り組む際に参照できるようにしました。



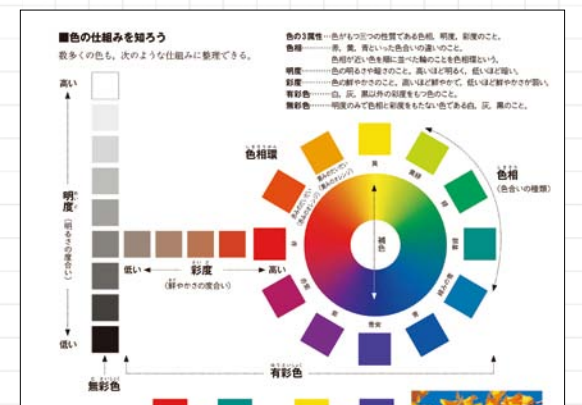
学習を支える資料
鉛筆やペンで描く『美術1』P48-49

Q4 色の学習資料については、 どのように工夫していますか。

A4 色相環の掲載のしかた、
色名の表記などを工夫しました。

『美術1』の巻末に掲載している色相環は、観音開きを利用して、いつでも引き出して参照できるように工夫しています。すべてのページに対応させて、色相環と比べながら作品を鑑賞することができます。

また、色相環には、一般財団法人日本色彩研究所のPCCSの表記にのっとり、12色すべてに色名を入れて、色覚特性のある生徒が文字でも色を覚えられるように配慮しました。



学習を支える資料
色と光の特徴を知らう『美術1』P60-62

その他の工夫については、弊社のウェブサイトでご紹介しています。
「光村図書ウェブサイト」> 中学校美術 > 教科書Q&Aをご覧ください。